

第2回流山市子ども・子育て会議

日時

令和元年5月30日（木） 10:00～11:00

場所

流山市役所 第1庁舎 3階 庁議室

出席委員

柏女委員・吉川委員・田中委員・手塚委員・堀江委員・鈴木委員・松本委員・
小沼委員

欠席委員

岡本委員・櫻庭委員・吉田委員・田邊委員・藪本委員

事務局

秋元子ども家庭部長・熊井子ども家庭次長兼子ども家庭課長・秋谷子ども政策
室長・倉本主任主査・北根主事

傍聴者

2名

議題

- (1) 第2期子どもをみんなで育む計画の策定について
- (2) その他

配布資料一覧

資料1： セントラルパークフェスタ&感謝祭2019

資料2： 子育てワークショップ 実施計画書

議事録（概要）

《事務局》

定刻となりましたので、ただ今から、令和元年度第2回流山市子ども・子育て
会議を開催させていただきます。

《会議成立の報告》

議事に入る前に会議の成立について申し上げます。本日の会議につきましては、委員13名中8名の出席となっておりますので、本会議が成立していることを申し上げます。

続いて、秋元部長よりご挨拶いたします。

《秋元部長》

本日の会議、令和元年度第2回目の会議になりますが、委員の皆様には2年間の最後の子育て会議となります。これまで、さまざまなこと、主に計画の見直し等を御審議いただきまして、ありがとうございました。

私達も子育てに関して取り組んできたところですが、前回の会議でも、あまり進んでいないというようなご意見も頂きました。そのあたりも含めまして、次にご参加いただく委員の方もいらっしゃると思いますが、次の計画の中ではしっかり踏まえて、また、私共が進めていく子育て政策と、皆様が望んでいることにギャップがあるのかなということも肌で感じますので、そのあたりをうまく政策に活かしていければいいかなと思っております。

これまで本当にありがとうございました。

《事務局》

それでは、柏女会長より議事進行をお願いします。

《柏女会長》

それでは、会議を始めます。子ども・子育ての計画の少し残っている部分、量の見込みの確保方策において、前回、保育関係は出されていると思いますので、今回は子ども・子育て支援事業が残っております。それと、流山市が力をいれているワークショップ、ここがあまり他市では行われていない。こちらを積極的に取り組んでいるワークショップのことについて議論をしたいと思います。また、今日は今期最後の子ども・子育て会議になります。次回からは新しい体制となりますので申し送りをするという大切な会議になります。できれば、この2点を終えた後に、皆様方から次期委員に申し送りをして頂きたい。

それでは、議題1の「第2期子どもをみんなで育む計画の策定について」事務局から説明をお願いします。

《事務局説明》

(資料) 6月2日開催子育てワークショップについて

《柏女会長》

今配られた資料において流山子育てネットが出展しますが、田中委員より説明をお願いします。

《田中委員説明》

実施内容は事務局からの説明のとおりになりますが、補足として、グループとして、父・母・児童のグループにそれぞれ分けて実施しようかと思っています。

子どもの県民条約を子育てネットでも進めていきたいと考えた時に、子どもの意見を直接聞くというのがとても大事といわれているので、取り入れて実施したいと思っています。

《柏女会長》

ご意見ありますか。

《鈴木委員》

子どもを連れていっても大丈夫ですか。

《田中委員》

大丈夫です。ワークショップに入るのは小学生以上を考えていますが、小さいお子様には子どもスペースを作る予定なので、そこで遊ばせるのもいいかと思っています。

《鈴木委員》

障害児童を連れていってもいいのか不安なのですが。定員オーバーの場合はどうなりますか。

《田中委員》

部屋も広くないので、他の部屋を借りるという方法もありますが、安全上の問題もあるので、人数が多い場合は、その中から代表して意見をいってもらいな形でもいいのではないかと思います。

《柏女会長》

事務局に伺います。これはワークショップとしての体制ですが、別途、質問調査をしてそれと合わせて、質問調査でニーズを拾いきれない方々に対してヒアリングを行いますよね。これは終わったんでしょうか。

《事務局》

ヒアリング自体はアンケートで終わっています。結果はニーズ調査報告書の完成版で報告となります。

《柏女会長》

その中では、障害関係グループのヒアリングはしていますよね。

そうすると、鈴木委員たちの声は、ヒアリングの中で拾われているので、それが上がってくるかと思えます。

もう一点、中部地区のワークショップはここに入るが、南部と北部はまた別途行うという理解で良いでしょうか。

《事務局》

2日のセントラルパークフェスタは南部という位置付けで、中部・東部・北部は、セブンイレブンジャパンと調整しておりますので、協議を進めていくということで考えていますので、またご報告させていただきます。

《柏女会長》

分かりました。他にありますか。

《手塚委員》

このチラシをみると誰でも参加できるように見えて、定員は超えると思いますが。

《田中委員》

なるべく入ってもらう方法にはしたいと思っています。

《柏女会長》

材料が多ければ、2回に分けることも出来るのですか。

《田中委員》

もう一度確認してみますが、前回はチラシを見て来る人はあまりいなかったです。

《手塚委員》

こういった活動をしていることを認知してもらうことが目的です。

《鈴木委員》

今回の結果次第では、次につなげられるかもしれないです。

《小沼委員》

チラシの配布はどこで行っていますか。

《田中委員》

公民館には置いています。

《吉川委員》

一般市民の方にはなかなか目につかない、直接声掛けをしないと意識のある方には来ていただけない。ワークショップに参加出来なくても、一言書いてもらうことはできるのではないのでしょうか。

《田中委員》

となりに会議室は用意しているので、そこで自由に書いてもらおうとは思っています。ワークショップが終わったら、模造紙などに貼りだして、午後來た方に見て頂き、意見のある方には書いてもらうこともできます。

《堀江委員》

フェスタや感謝祭で来られる方が多いと思いますが、ふらっと入って1階で実施しているのであれば、気軽に意見も言えますが3階となるとハードルが高いです。

《田中委員》

1階に別途アンケートをとるテントを置くので、そこで意見を聞く事もできると思います。

《柏女会長》

「このワークショップは子育て会議で議論していますよ、子育ての街として関心を持って下さいね」というのが、目的なので多くの方の意見を頂けるのが望ましいですね。そういう意味では質より量も必要です。

市との共催なので、中部・北部・東部でも開催する旨のチラシも置いてもらうといいですね。また、委員の方にもご協力お願いします。

では次に「量の見込の算出」に係る参考資料の説明をお願いします。

《事務局説明》

(資料) 地域子ども・子育て支援事業の量の見込について

《柏女会長》

質問等ありましたらお願いします。

《吉川委員》

ファミサポの数字が大きく乖離しているのはなんですか。全年齢が対象ということですか。

《事務局》

学童利用の数字を入れています。

《吉川委員》

平成28年度～平成30年度の数字の差が大きいのは原因が何かあるのですか。

《事務局》

学童への送迎で利用していた方が利用しなくなったなどの理由なのか検証しているところです。

《柏女会長》

令和2年度の見込数字が少ないのはなぜですか

《事務局》

ニーズ調査にお答え頂いた方の傾向として出ています。

《柏女会長》

では、平成30年度は、年間1,241人日だったが、ニーズ調査をしてみれば、令和2年度では、年間179人日という事ですね。

《事務局》

色々ある選択肢のなかで、使いたいかどうかという欄に○を付けた方が少なかったということです。

《委員》

実際にファミサポを使っている方ではないということですね。

《事務局》

現在使っている方だけではなくて、アンケートに答えた方ということです。

《田中委員》

アンケートを取った方はこの数字かもしれませんが、量の見込が計画の数字として落とし込まれるのですか。

《事務局》

今回は実績を踏まえたうえで、量の見込の軸として描いていきますので、この数字がこのまま使われるということはないです。

《田中委員》

何を懸念しているのかというと、数字の見込が少ないので、予算を削られるとか量を増やすためにこういう風に使いたいと思った時に、計画がこの数字だから出せませんといわれると困ると思ったんです。

《事務局》

現行の計画のなかでは実績を捉えて量の見込の方向性をだしています。ファミサポに関して言えば、実績に基づいて見込を立てているという背景があります。地域子育てに関して言えば、実績に基づいて考えていかなければならない部分がでてきます。当然予算につきましては、実績ベースの中で捉えて考えていくというのが実態です。

《田中委員》

無償化が入ってくるので、そのお金を習い事に費やそうとする人が多くなり、ファミサポで送迎等を利用しようとする方が増えてくる、そうすると、提供者側を何とかしなければならなくなるという未来予想図があるということを伝えたかったです。

《手塚委員》

田中委員が話していた人口が伸びるか伸びないかだけではない別の要素も絡んでいるというのが一つと、子どもの人口の伸び率が重要だと思っています。比較すべきは実績との比較ではなくて、前回からの伸び率がどれ位なのか。母数の30代子育て世代がどのくらい伸びて、今回アンケートの希望数がこのくらい

増えて、加えて無償化という別の変動要素が入るからさらに伸びるという風に考えないと、予測値はずれると思います。

《事務局》

事務局もそのように考えております。

《柏女会長》

この調査は5年前に行った伸びと人口の変動・無償化のような新しい変動要素とそういうものを全部加えながら5年間の予測を立てていくという形になります。今後、人口がどれくらい伸びるのかとニーズが非常に高まっていますが、5年後にはどの位伸びるのかということを、総合して決めていく形になると思いますので、事務局の方で議論していただいて、新しい体制になってから案を出して頂く形になるかと思えます。

ただ、田中・手塚両委員のお話のように、変動要因を視野に入れなければならない動向は今ご意見をいただきましたので、シンクタンクの調査結果を踏まえて数字を出していくということがあると思いますが、その時にお伝えいただければと思います。

では、この件についてはよろしいですか。

《各委員》

はい

《柏女会長》

それでは冒頭申し上げましたように、今日が今期子ども・子育て会議の最終の会議となります。これまで2年間一緒に議論を進めてまいりました。変わられる方も継続の方もいらっしゃると思いますが、それぞれご意見を頂きたいと思えます。

《田中委員》

まずは、2年間ありがとうございました。次年度も継続させて頂くことになりました。人口も子育て世帯も増えてきていることを実感はしておりますが、日々行っている活動の中では、ますます孤立化している様子が見えます。

人と関わらないようにしようとする方が見て取れます。多様な家庭・多様な子どもが増えてきているなかで、障害のあるお子様、支援が必要な家庭が増えてくるということを、色々な場所で意見交換をさせて頂いております。

その中で、行政は最後の砦としてやるべきことに取り組んで頂きたい。私達も

何ができるか分からないですが、協力できることがあればやらせて頂きますので、今後とも宜しくお願いします。

《堀江委員》

2年間ありがとうございました。初めて参加して、何を発言していいのか分からないことだらけでしたが、色々な方の意見を聞いて学ことが大変多かったです。

最近の事件をみて、狙われるのは子どもばかりで毎朝送り出すのが心配になります。今後人口が増えていくなか、安心して過ごすためにどういう風にしていったらいいのかを考えていけるような流れになればいいかなと思います。

《手塚委員》

2年間ありがとうございました。

最初は有識者の方が多くなかで、増えているボリュームゾーンの意見を代表して言おうと参加してみたものの、データを見てもよく分からず、皆さんの意見を聞けば聞くほど多様すぎてどうコメントしたらいいのかというところから始まって、当分の間はコメントを差し控えていたという参加の仕方でしたが、途中から自分にしか出来ない役割があると思い直し、意識的に意見を言い始めたのが2年目位でした。

次回も参加させて頂くことになったので、さらに意識を変えて、色々疑念に思ったことがあったので、次回からは民間の力で解決できるのかという繋ぐ役割として参加出来たらいいなと思います。

この2年間で一番もやもやしたことは、小学生4年生から6年生の居場所がないということに対して、本当に面倒みないといけないのは小学校1年生から3年生だというもどかしさ、でも実際は4年生から6年生をケアしなければいけないのに、優先順位が高くて重要度が高い問題がどんどん後から出てくるのを傍観していなければならない自分にフラストレーションを感じたので、次はそれを解決できるような参加の仕方をしたいと思います。

《鈴木委員》

2年間ありがとうございました。

子どもが幼稚園に行き初めて感じたことは、外国の方が増えたことにより、バイリンガルな子どもも増えていますが、日本語が拙くなっています。流山市も他国化してきており、生活が不安だと子どもにも伝わってしまいます。そういう子ども達のケアもしていけたらいいなと思いました。

《松本委員》

2年間お世話になりました。

仕事でもそうですが、話を聞く側なので、皆さんの活発な意見を聞いてて終わってしまった感じです。

ファミリー・サポート・センターの件もお伝えしたいと思います。子どもも急激に増えてきて、ファミリー・サポート・センター依頼の内容も複雑になっています。今までは、新年度に向けて生活が変わるので利用したいという依頼でしたが、現在は年間を通して難しい依頼が増えてきています。

受ける側も聞いてはいるが、事務処理に追われて大事なところが抜けてしまい、小さなトラブルが発生することもあります。昔から言われている、ファミリー・サポート・センターの同等の立場での援助方法からずれてきているような気がします。

援助してもらうのは子ども達なので良い環境でみてあげたいという気持ちがあります。以前もお話があったと思いますが、保育の質という部分で、もちろん数値の上では満足いく数値になっていると思いますが、ファミリー・サポート・センターのみではなく、全体で市として質を上げていくということで助けて頂ければと感じます。

《小沼委員》

2年間ありがとうございました。

協議会の代表という立場で出席しているので、話を持ち帰った時に協議会として意見が一枚岩になっていないという状態なので、団体としての意見を持ってくるにしても、今一つ学童はこうあるべきというところが、運営法人で一つにまとまっていないのに、代表として出てくるのも意見を言いにくい背景があるかなというのは感じていながらの2年間でしたが、皆さんの意見を聞く事が重要なかなと思いながら参加させて頂いて、思うこととして、学童のニーズ調査の見込の数値をみても鵜呑みにしたら大変な数値です。

高学年の数値も、子どもの気持ちを置いていかれてるかなと思ってます。この先、もちろんニーズは増えてくるのですが、この数値を鵜呑みにして、施設を作っていけばいいのかということでは追いつかないです。

子どもの居場所作りが必要だということは理解してますし、学童だけではないところでの4年生から6年生の居場所も必要かなと思います。個人的には、当法人としては安全に預かるというのはもちろんですが、学童を出たときに子どもが自立できるように生きる力を育てあげたいという思いでいます。ある意味、4年生以上は外の世界を覚えていきながら成長して行ってほしいと思っているので、学童を併用しながら他の居場所が幅広く出来てほしいと思

ます。

《吉川委員》

2年間ありがとうございました。

NPO 団体として活動していますが、皆さんのように色々な視点でものを見ることがなく、自分の団体の活動だけに注力した見方が多かったと思うんですが、この会議に参加して色々な意見を伺い、幼児サークルをしてても少人数の意見しか受け取れなかったりもするので、委員の方の意見を聞けてとても参考になりました。

当団体は幼児から大学生までが参加していますが、今は幼児が多く、どうしてもそちらの方に注力していかなければなりません、学童もありますし、学童以外の子どもの居場所づくり、中学生や高校生もいられるような児童館のような遅くまで運営できるような建物がこれから計画している中に入れられたらいいなど思っている、そういう方向を意見として言っていきたいと考えています。

《柏女会長》

私も3期務めてきました。この3期の中で一番印象的だったのは、保育と学童の量の確保のすさまじさ、全国で例をみないような急増ぶりになるかと思えます。まだしばらく続くかと思えますが、この後の後始末はどうするのだろうか、とても心配になります。どう転用していけるのか、その政策は合わせて考えていかなないととんでもないことになるのではないかと感じました。

2つめは、流山市の子育て人口は増加の傾向であり、保育や学童だけを増やすのではなく、その他の政策も増やさなければならないというところで、ひずみがきていないのだろうかということ強く感じます。

たとえば、野田市の事件もありましたが、虐待への対応等について対応できるだけの人的あるいは社会資源として育っているのだろうかということをおもいました。

1つ例としては、晴香園でショートステイが行われていますが、利用している市は複数ありますが、何十万人のニーズで晴香園のショートステイ枠が少しあるだけでこれだけのニーズしかないということは、使い勝手の問題や最初から諦めているとか、知らないなどが多いのではないかと思います。

浦安に少し関わっているのですが、浦安市は自市でショートステイ施設を作ることになっています。流山市で同じように考えていくことはできないだろうかということ議論していく必要があるのかなと思います。

3つめは、色々な政策が充実していると、縦割りなので、どうしても切れ目が

出てくる、切れ目のところを流山子育てネットなどが民間レベルでカバーしようとしている潜在的な力を流山市民は持っていると感じました。それと同時に、政策的にも切れ目のない支援ということを考えていかなければならないと思います。

4つめは、街がいびつになっている感じがします。おおたかの森と南部は子育て家庭が多く人口は増加しています。北部は減少しているように思えるが、水辺公園やにおどり公園等には若い人が来ている可能性もあります。そこで若い人との交流が盛んになっていくことで、総合的な街づくり、バランスのとれた街づくりが出来るために、子どもの分野が貢献していくことが大事ななとは思いました。

最後に、この会議はとても元気だと感じます。他市の子ども・子育て会議にくつつか関わっていますが、殆ど発言がありません。この会議は、私が交通整理しなければならぬほど活発です。学生のディスカッションの声とこの会議で聞ける子育て中あるいは子育て支援に関わっている方々の声はとても大事です。元気な会議であり続けて欲しいなと思っています。有難うございました。

それでは、今日の議題は最後になりますが、皆様から何かありますか。

《各委員》

なし

《柏女会長》

では、以上で子ども子育て会議を終了いたします。委員を交代される方も降りられる方もいらっしゃるかと思いますが、応援団として活躍をお願いしたいと思います。有難うございました。

以上